

# 令和7年度 中学生「親になる講座とふれあい体験」 実施報告書

知多市児童センター

## 1. 事業目的

本事業は、中学生を対象に、県が作成した愛着形成のための教材「親と子のふれあい」DVDを活用し、乳幼児の発達や関わり方について事前学習を行います。そのうえで乳幼児やその保護者と出会い、ふれあい、交流することを通じて、以下のような体験と気づきを得ることを目的としています。

なお、国は、児童・生徒による乳幼児のふれあい体験を児童館の事業として位置付けており、知多市においても『知多市子ども計画』（令和7年度～令和11年度）の中で、本事業を主要事業として位置付けています。

中学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命の尊さ、親子の深い愛情、家庭の大切さを実感する。</li> <li>・子育ては母親一人が担うものではなく、夫婦や家族、地域が協力して行うものであることを理解する。</li> <li>・将来の親としての「期待」「自覚」「責任」の意識を育む。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんと中学生が関わる様子を見ることで、わが子への愛情を再確認し、子どもの成長や将来の姿を思い描くきっかけになります。</li> <li>・事業への参加を通じて、「親になる次世代を支える」という社会参加・社会貢献の意識が芽生え、保護者自身の子育てへの評価や自己肯定感が高まります。</li> </ul>

## 2. 実施校・開催日等

実施校	開催日	講座	ふれあい体験	疑似体験	親子人数 (親子組数・乳幼児数)
八幡中学校	10/22 (水)	5クラス 160人	各クラスから希望者 23人	137人	12組14人
知多中学校	11/5 (水)	5クラス 160人	1クラス 31人	なし	15組20人
旭南中学校	11/20 (木)	4クラス 109人	1クラス 28人	101人	15組18人
中部中学校	11/26 (水)	1クラス 27人	1クラス 27人	なし	15組20人
東部中学校	11/28 (金)	3クラス 101人	各クラスから希望者 34人	67人	10組14人

### 3. 内 容

#### (1) 事前学習

- ・DVDを視聴して乳幼児の発達や子育てについて学んだり、「親になる」ことについて考えました。



#### (2) ふれあい体験

- ・親子と中学生のペアをつくり、入室後自己紹介をする。
- ・ペアの赤ちゃんと一緒に遊ぶ（自由遊び）。
- ・乳幼児の発達や子育てについて保護者と話をすることを通じて、親の思いや子育ての大変さ、喜びなどに気づく。
- ・ふれあい遊び、体操、絵本を見るなど、直接ふれあう。
- ・代表の生徒が感想や感謝の気持ちを乳幼児親子に伝える。



### (3) 疑似体験（希望校のみ）

○新生児の標準体重3キログラムの人形を使用し、赤ちゃんの世話を体験する。（全員）

赤ちゃん人形を抱っこして、新生児の重さを感じ、命を大切に扱わなければならないことを実感する。おむつ交換、おんぶひもを使ってのおんぶを経験する。

○体験ベストを使って妊婦体験をする。（2～3人）

妊婦体験ベストを着用して、立つ、座る、物を拾う、走るなどの日常の動きをしてみ、体の重さ、動きにくさなど、妊娠中の体にかかる負担を体験する。



### (5) 保護者からのメッセージ（児童センター）

・保護者から生徒へのメッセージをまとめ、後日学校に届ける。



## 4. 生徒の感想（抜粋）

### 【ふれあい体験に参加した生徒】

- ・子育ても大変だし、遊んであげるのも疲れたし、接し方とか対応の仕方が難しくて大変だったけど、小さい子どもとふれあう機会をもらい、小さい子どもに関心を持つことができました。楽しかったです。
- ・今まではただ大変としか思っていなかったけど、赤ちゃんの寝顔や笑顔、成長を見てやりがいを感じていることを知って、ただ大変なだけじゃなく良いこともあって子育てへのイメージが変わった。
- ・いろいろと質問して、子育ては嬉しいときもあるけど大変なこともたくさんある、一人じゃ絶対できないから協力して子育てする大切さがわかりました。体験の時にお母さんからいろいろ話を聞いて、大変なことがあるからこそ笑ったりしたときはとても嬉しいと言っていたのを聞いて、自分を育ててくれた家族に「ありがとう」という気持ちになりました。お母さん、お父さんの大変さがわかったから、これから街中などで泣いている子を見かけたら優しく接してあげたり、頑張っているお母さん、お父さんなどに協力しようと思いました。
- ・赤ちゃんの手がとても小さく、とってもかわいかったです。これからこの子も成長するんだなと思ったら感動しました。ふれあいをさせてもらった赤ちゃんのお母さんが、赤ちゃんの表情や動きを見て、怒っているのか、喜んでいるのか、何をしてほしいのかがわかるところがすごいと思いました。とても愛情をもって接していて、私の親もそうやって接してくれたのかなと嬉しく感じました。
- ・子育てをする中で大変なことや不安に感じるということがたくさんあることがわかりました。講座や実際にふれあい体験をして、子育ては「自分の成長につながる」「幸せ」という保護者の感情がとても伝わりました。まだ自分の将来についてのイメージは湧きませんが、この機会をきっかけに少しずつ考えてみたいです。

### 【疑似体験に参加した生徒】

- ・自分は人形でおむつを替えたり、抱っこひもを取り付けたりしたけど、動いていない状態であんなに大変だから、実際に動いている状態だともっと大変なんだろうなと思った。
- ・実際に赤ちゃんとはふれあうことはできなかったけど、模擬体験でも子育ての大変さ、気をつけることも多くて、自分を育てるのもこんなに大変だったのだなと改めて感じました。いつか自分が子育てをする立場になると思うので、この経験を生かしていきたいと思いました。良い機会だったなと思いました。
- ・赤ちゃんはすごくかわいいけど、自分が大切な命を預かることになるので責任をしっかりとって、かわいいだけではだめだなということを感じました。自分だけで育てようとするのではなく、周りの人の力も借りながら子育てをしていくことも必要なのだと知ることができました。
- ・僕は妊娠した時の重さを経験したんですが、座る時の動作が妊娠している時としていない時では全然違うと知りました。

### 【講座終了後、授業に戻った生徒】

- ・子どもを持つことの大変さがわかったけど、すべてが大変ではないということもわかった。子育ては一人で抱え込まずに誰かに相談してもいいことに気づくことができた。
- ・赤ちゃんの成長に加えて親も成長することを知れました。また「自分に子どもができたら、どんな子育てをしたいか」考えるきっかけになりました。
- ・小さい子はかわいくて癒されると思っていたけど、実際は大変で難しいことがよくわかりました。ですが、相談したり誰かを巻き込んで、自分一人で悩まなくてよいんだと思い、将来に希望を持つことができました。これからの生活で小さい子と関わる機会があったら、講座で学んだことを思い出し、ふれあっていきたいと思います。もし自分が一人で悩んでいることがあったら、自分から悩みを相談したいと思いました。
- ・赤ちゃんがお母さんの真似をするのが印象的でした。真似されても嬉しいことがわかったので、0歳5か月の妹と真似っこ遊びをしたいと思いました。学んだことをお母さんに教えたらびっくりしてました。

## 5. 保護者の感想（抜粋）

- ・楽しく親子ともにすてきな時間を過ごすことができました。小学校の方も参加させていただきましたが、中学生のみなさんはまた一段と大人で、子どもに合わせて笑顔で遊んでくれたことがうれしかったです。
- ・子どもが好きなんだと伝わる優しい関わりをしてくれ、中学生のころから将来のことを考えていてステキだなと思いました。
- ・中学生の子が子どもに興味を持ってくれて、たくさん質問してくれました。ふれあいができて、とても楽しかったです。
- ・初めて参加した小学校の時に比べ、座って遊べるようになったり、マラカスを自分で取って振ったり、我が子の成長を感じ、すごく感慨深かったです。様々な年代の人とふれあえるこの機会に参加することができてよかったです。
- ・元気いっぱい全力で遊ぶ姿や、「かわいい」「赤ちゃん大好き」と言ってくれる男子中学生もすごくかわいいなど、息子が大きくなることがもっともっと楽しみになりました。
- ・中学生さんとのふれあいが普段まったくないので、子どもとても新鮮だったようで、すぐに手をにぎって楽しそうに遊んでいたのが印象的でした。学区となる中学校ということもあり、私自身興味深い体験となりました。中学生さんにとっても良い経験になっているといいなと思います。
- ・自分が中学生の時とは違うことがあって、中学生に質問がたくさんできてよかったです。中学生になるとなかなか遊ぶ時間がないと言っていたので、今たくさん息子と遊ぼうと思いました。

## 6. まとめ

本事業では、乳幼児とのふれあい体験の前後においてアンケートを実施し、生徒の意識の変化について把握しました。

乳幼児や小さい子どもに対する関心については、体験後に「関心を持つようになった」「どちらかといえば関心を持つようになった」と回答した生徒の割合が多く、ふれあい体験を通して多くの生徒の関心が高まったことがうかがえます。

子育てに対するイメージについては、体験前には「大変」「忙しい」といった回答が多く見られましたが、体験後にはそれらに加え、「楽しい」「かわいい」「やりがいがある」といった肯定的なイメージを持つ生徒が増加しました。これは、子育ての現実を理解すると同時に、前向きな側面を実感する機会となったためであると考えられます。

また、「自分の結婚や子育てについて具体的にイメージできるか」「考えるきっかけになったか」という設問では、肯定的な回答が多くを占めており、将来の生活について自分自身のこととして考える意識が生まれたことが確認できます。さらに、乳幼児とのふれあいに対する心理的な抵抗感が軽減し、身近な子どもとの関わりに前向きな意識を持つ生徒が増えたことも、本事業の成果であるといえます。

これらのことから乳幼児とのふれあい体験は、中学生が乳幼児の発達や関わり方について理解を深めるとともに、命の尊さや親子関係、家庭の役割について考える機会になったことがうかがえます。また将来の結婚や子育てを自分自身の課題として捉えるきっかけとなり、次世代を担う立場への意識形成に一定の効果があつたものと考えられます。

なお、中学校での乳幼児ふれあい体験は、今年度をもっていったん終了となります。これまで本事業の趣旨をご理解いただき、授業時間の調整や会場の確保、アンケート調査へのご協力など、多方面にわたりご協力いただきました各中学校の教職員の皆様ならびに関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

